



天上はるかに

秋高東京同窓会会報

題字 布田祐五郎様

2011 年 5 月新緑号

秋田高校東京同窓会

〒106-0032 港区六本木 5-16-5
 インバリアル六本木 1001 鎌田会計事務所内
 TEL 03-5545-7775 FAX 03-5545-0087
 URL <http://www.shuko-ob.net/>

ふるさと東北秋田を今。

東日本大震災の被災者及び
 今なお避難所の皆様、心よ
 りお見舞い申し上げます。
 復興に向け

『前(め)さ行くぞお!』

なんとしべえ。東北・東日本、
 大変なこととなりました。

『前(め)さ行くぞお!』。私達
 にできることをひとつずつ……。

本年度の秋田高校東京同窓会
 総会は6月4日(土)です。S 38
 年秋田高卒、東レ経営研究所特
 別顧問の佐々木常夫氏の講演と懇
 親会は同窓生、他校の人々にも呼
 びかけた「集い」としました。
 佐々木常夫さんは『ビッグトリ
 ー』から『働く君に贈る25の言
 葉』までここ数年での百万部の
 ベストセラー著者。今トップクラ
 スの講演数の政府審議委員、経済
 人です。

その佐々木さんのふるさと秋田
 家族、企業人として……。今、こ
 の大不況・経済危機の中、求めら
 れるものは……。『ワークライフ
 バランス』とは。すさまじい家族
 の絆から今、私達は……。

本当に期待される講演です。是非、声をかけあい、多くの皆さん
 のご参加をお待ちしております。

秋田高校東京同窓会 & 講演会

6/4(土) ハイアットリージェンシー東京



記念
講演会

私にとつての会社・仕事・家族

特別講演…佐々木常夫氏 (昭和38年卒)

現東レ経営研究所特別顧問

まず、考えなさい。

● 強くなければ仕事はできない。
 優しくなければ幸せにはなれない。

● 「目の前の仕事」に真剣にならないさい。
 きつと、見えてくるものがある。

● 君は人生の主人公だ。

● 何ものにもその座を譲つてはならない。
 すぐに走り出してはいけない。

● 書くとき覚える、覚えるとき使う、使うとき身に付く。

● せっかく失敗したんだ、生かさななきゃ損だよ。

● リーダーとは、周りの人を元気にする人。

● 自分を偽らず、素のままに生きなさい。

● 運命を引き受けなさい。

● それが、生きるということです。(「25の言葉」より)

6月4日(土) ハイアットリージェンシー東京

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 2-7-2 TEL 03-3348-1234 FAX 03-3344-5575

総会 17時～(秋高同窓生)

講演会 17時30分～ } 同窓生以外の方(集合17時15分)

懇親会 18時30分～ }
 会費 7000円 <どなたでも参加できます>



佐々木常夫氏略歴

一九四四年 秋田市生まれ。六歳で父を亡くし四人兄弟の次男として母の手ひとつで育つ。
 一九六九年 東大経済学部卒、東レ入社。自閉症の長男に続き年子の次男、年子の長女が誕生。しばしば問題を起こす自閉症の長男の世話、加えて肝臓病を患った妻がうつ病にも罹り二〇〇年の間に四三回もの入院、三回の自殺未遂を起こす。まだ子供が小さいときは、朝五時半に起き三人の子供の朝食と弁当を作り、夕方は会社を六時に出なくてはならない日々。育児、家事、介護に追いつけられない状況の中でも仕事への情熱を捨てず、大阪、東京と六度の転勤をしながら破綻会社の再建やさまざまな事業改革に全力で取り組む。
 二〇〇一年、同期のトップで取締役就任。二〇〇三年東レ経営研究所社長に。
 数々の企業や事業の再構築を成し遂げ、東レ三代の社長に仕えた経験から独特の経営観を持ち、現在、経営者研修などの講師を務める。その半生を包み隠さず綴った著書「ビッグツリー——私は仕事も家族も決してあきらめない」が反響を呼びテレビ東京「ガイアの夜明け」NHK教育テレビ「知る楽」ほかさまざまなメディアに数多く取り上げられる。
 その後「部下を定時に帰す仕事術」「そうか君は課長になったのか」「働く君に贈る25の言葉」などいずれも一〇万部を超えるベストセラーを出版。現在、毎日新聞に「経済観測」のコラムを また読売新聞の書評欄「ビタミンBOOK」を連載中。

略歴

一九四四年（昭和19年） 秋田市生まれ
 一九六三年（昭和38年） 秋田高校卒
 一九六九年（昭和44年） 東京大学経済学部卒、東レ株式会社入社
 二〇〇一年（平成13年） 取締役・経営企画室長
 二〇〇三年（平成15年） 株式会社東レ経営研究所社長
 二〇一〇年（平成22年） 株式会社東レ経営研究所特別顧問
主な社外役職
 内閣府統計委員会委員（〇六年三月）
 大阪大学法学部客員教授（〇八年四月）
 内閣府男女共同参画会議議員（二一年一月）

著書

「ビッグツリー——私は仕事も家族も決してあきらめない」〇六年六月出版
 「新版 ビッグツリー」〇九年七月出版（家族の心と命を守り抜いた家族再生の手記）
 「部下を定時に帰す仕事術」〇九年二月出版（最短距離で成果を出すリーダーの知恵を説く）
 「そうか、君は課長になったのか」一〇年三月出版（職場のリーダーに贈る37通の手紙）
 「働く君に贈る25の言葉」一〇年二月出版（人は何のために働くのかを問う）
 いずれもWAVE出版 ホームページ <http://sasakisune.jp/>

人生を支えてくれる
言葉が見つかる。

欲をもちたい。よい習慣は、
欲が磨かれて志になる。
才能を超える。

「それではなにか」という言葉が、
君を磨き上げてくれる。

働く君に贈る
25の言葉

逆境の場面で、
君を磨き上げてくれる。
信頼こそ、
最大の援軍。



せっかく失敗したんだ、
生かさないで損だよ。
言葉に魂を吹き込むのは、
君の生き方だ。
運命を向き受けない。
それが、生き方というのです。

読み終えたとき、
なぜか強く
「日本人でよかった」と
思いました。
よしもとばなさん 作

共読を集めてベストセラー
30万部突破！
TSUTAYA BOOKS
ビジネス自己啓発部門
3位！
(2011.4/4～2011.4/8)



定価1470円 ISBN978-4-87290-600-7

課長は、現場業務とは次元の違う仕事だ！
部下を動かすのはスキルではない。
部下の心を動かす、君の高い志だ。

そうか、君は
課長になったのか。

昇進したら、
まず最初に
読む本！

そうか、君は
課長になったのか。



ロングセラー
13万部突破！
定価1470円 ISBN978-4-87290-444-9

「最強の課長」と言われた著者が贈る37のアドバイス！
 ◎「プレイングマネージャーにはなるな」 ◎「あいつの呼吸が仕事をタラシにする」
 ◎「課長にできる2か3か目でさっさと」 ◎「人事評価は自分自身を伸ばす」
 ◎「前任者の仕事を評価する」 ◎「対話で部下のモチベーションを上げる」
 ◎「大目標をブレクダウンする」 ◎「ダイバーシティマネジメントのすすめ」
 ◎「部下の能力を最大に高める」 ◎「返報が部下を救ってくれる」と

4/3 日本テレビ「真相報道バンキシャ」にゲスト出演！

大反響!! 佐々木常夫の本

東レ経営研究所特別顧問

9万部突破!

部下を定時に帰す
仕事術
リーダーの知恵



定価1470円 ISBN978-4-87290-585-7

創立 23 周年
WAVE出版

(読売 / 毎日新聞より)

スケジュール

秋田高校東京同窓会スケジュール

2012年1月28日(土) 賀詞交歓会・学生との交流会
 2012年6月2日(土) 総会 & 講演会

幹事定例会

2011年5/13(金)、7/8(金)、9/9(金)、11/11(金)、
 2012年3/9(金)、5/11(金)

がんばろう東北！ がんばろう山元町！！

緊急レポート

2011 年 4 月 4 日 宮城県山元町に支援物資を届けました



坂元駅

した。

山元町災害対策本部に電話して下着類を届けたいと伝えました。

「津波による被害が甚大なのに、マスコミに取り上げてもえなくて支援物資が集まりにくいのです……。」と担当者に窮状を訴えました。電話を切った後に、支援物資を何とか現地に届けたいという思いが湧いてきました。

山元町に支援物資を届けよう……そう決心した時に、「山元町って、うちの近所の山元町と同じ文字だね。」と夫に言われました。「そうだ。横浜の山元町の方々にも協力を仰ごう。」思い立つたらずるすぐ行動です。

三月二日に起きた東日本大震災の後、仙台市若林区に住む叔母の肉声が聴けたのは二週間後の三月二六日の朝でした。叔母に私が支援物資として衣類を集めていることを伝えたところ、「私たちのことはいいから、避難所で困っている人たちに下着を届けてあげて……。」と言われました。ダメもとだと思つて宮城県災害対策本部に電話をかけてみました。「宮城県南部で被害が大きかった亘理町や山元町へ直接届けてもらえるなら、お願いします。」私はそのとき山元町という名称を初めて耳にしました。早速、町のホームページを見て津波で町は壊滅状態になり物凄い被害が出ていることを知りま

町って、うちの近所の山元町と同じ文字だね。」と夫に言われました。「そうだ。横浜の山元町の方々にも協力を仰ごう。」思い立つたらずるすぐ行動です。「同じ名称なのも何かの縁だね。困っているときはお互い様だよ。」と山元町二丁目商栄会の皆様は快く支援を約束してくださいました。山元町商店街だけでなく山元町の町内会としても支援物資を集めるための回覧板を全戸に回してくださったのです。そして宮城県山元町に私に先方に渡して欲しいと支援のメッセージを託されました。

神奈川県中小企業家同友会の会員から送られた支援物資と私の自宅に送られてきた支援物資を二トラック

に積み込んで、我が家からは自家用車で四月四日の早朝宮城県山元町へ出発しました。

宮城県山元町に向かったメンバーは、私が主宰しているWebサイト「ヨコハマNOW」の編集長の辰巳、秋田高校の同級生の今野さん、そして夫と私です。

トラックは一路、山元町役場に向かいました。それまでの道中では津波による被害を見ることはありませんでした。到着した山元町役場は高台にあり立派な建物でした。役場前には伝言版があり、いまだに安否確認のメッセージが貼られていました。伝言版の横には津波が着た地点と時刻を示す地図が貼られていました。

災害対策本部は役場に入つてすぐのところにあつた。山元町二丁目商栄会からの文書は、災害対策本部の伊藤さんに渡しました。「座るスペースもなく立ったままですみません。この文書は町長に渡します。」と言われまし



左から今野さん・ドライバーの岡本さん・渡邊辰巳（ヨコハマNOW編集長）

た。総務課長の庄司さんにもお会いすることができました。

役場の前で支援物資の受付を済ませて、私たちは支援物資の集積場となつて体育館に向かいました。

支援物資は役場の職員にチェックされ必要なだけ受け付けられます。食料品や下着類は受け取ってもらえませんが、衛生用品（トイレットペーパー・おむつ・生理用品など）は必要十分です。とお断りされました。

体育館では若い自衛官がいがいしく働いていました。持参した支援物資の半分をトラックに残して、私たちは避難所となつて山元支所に向かいました。

坂元支所は、国道六号線から少し山間部に入ったところにあり、暖房も通つていて避難している方々も落ち着いている感じでした。秋田から「きりたんぼの炊き出し」を行うグループが到着していました。

坂元支所で斎藤俊夫町長とお会いす



ることができました。昨年まで宮城県の職員だったという町長の顔には白髪交じりの無精ひげが生えていました。駅のほうに行つてみると、私たちは車を走らせました。そこで見た光景は……一生忘れられないでしょう。津波が人を生活を何もかも奪つていったのです。東北一の産地を誇つた「いちご」で潤った農家が建てた「いちご御殿」と呼ばれていた豪邸も無残な姿になつていました。

常磐線の「坂元駅」があつたところで車を降りました。駅の階段はぐちゃぐちゃにされ、線路は大きく曲がっていました。駅のホームは地盤沈下してアスファルトはうねっていました。駅前案内版だけが津波の被害を受けずにポツンと立っていました。案内板の向こうにあった町は消えてしまいました。こんなことがあるのか……想像を絶する津波の威力の前に私は茫然と立ちすくんでしまいました。

豊かだった山元町の農地がよみがえる日がくるのでしょうか。その道のりは遠いかも知れません。

でもあきらめません。東北はきっと立ち直ります。今こそ日本人の底力を発揮するときです。

私たち二人一人が復興のためにできることから始めましょう。

一人の力は小さくても皆の力を合わせれば大きな力になります。

がんばろう東北！がんばろう山元町！！ 私たちの戦いはまだ始まったばかりです。 渡邊桃伯子（S50）

平成三年賀詞交歓会開催



講話中の渡部（S56）



金谷（H10）



松田（H3）



二木（S39）



荒谷（S38）



佐藤（S56）



高橋（S39）

五六年卒の渡部徹氏によるオリンピック招致委員会のお話とアスリートのお話をいただきました。オリンピックを招致する難しさがよく分かりました。

引き続き、二五年卒の神埼泰雄氏の乾杯で皆さんやとりラックとした気分になり、和気藹々と話が弾みました。

秋田から取り寄せた日本酒一本もテーブルに並びましたが、会



橋本会長（S40）

平成三年一月二九日アルカディア市谷にて、午後三時から学生三〇名との交流会が行われ、今年の就職の厳しさがひしひしと伝わるような皆さん緊張した面持ちで話を聞かれていました。

グローバル時代となった現在、海外赴任も当然という雰囲気の中、いかに自分の志を高く持ちまた自分をどのようにアピールして就職に望むかの議論が行われました。

五時三〇分からは部屋を変え、学生三〇名・OB六〇名で賀詞交換会を執り行いました。

橋本五郎会長の開会の挨拶で始まりました。

り自ら考えキャリアを形成する一方、社会人の最初は「ヒトのため汗をかき、仕事は自ら進んでこなして欲しい」との熱い思いが学生さんに届けられました。昨今の業務のグローバル化を念頭に置いた、まさしく的を得た講演と質疑応答で、集まった学生達にも大変好評でした。講演終了後、有明三樹子氏（昭和五八年卒）、松田京平氏

（昭和五一年卒）の司会の下、アポットジャパン株式会社人事部長の倉井幹彦氏を講師に迎え、大学生の参加者と車座・対話形式で講演が始まりました。講師からは、約1時間半に亘り「グローバル化する社会の中で中国人やインド人、韓国人に負けず自らのキャリアを切り開いて欲しい、そして、しっかりと自ら考えキャリアを形成する」

「ヒトのため汗をかき、仕事は自ら進んでこなして欲しい」との熱い思いが学生さんに届けられました。昨今の業務のグローバル化を念頭に置いた、まさしく的を得た講演と質疑応答で、集まった学生達にも大変好評でした。講演終了後、有明三樹子氏（昭和五八年卒）、松田京平氏



大学生と社会人の交流会

平成三年一月二九日（土）、恒例の「大学生と社会人の交流会」が大学



佐々木 (S56)



鈴木 (S30)



百瀬 (S56)



小林 (H18)



船木 (H20)



永井 (H20)



乾杯! 神崎 (S25)



工藤 (S58)



鎌田 (S47)



古木 (H19)



大野 (S42)



石山 (H20)



中村 (H19)



が終わる頃には全て空になっていました。いかに秋田の人はお酒が好きかが良く分かります。

乾杯のあとは、司会の佐々木菜穂子さんが指名した人が壇上に上がり一言ずつご自身の近況やご自身が学生だった頃の思い出話等をしていただきました。

各テーブルでは学生とOBとの話が弾み、大方のOBは自分が学生だった頃の話を自慢げにし、後輩を叱咤激励していました。

おじさんになるとどうしても説教じみてしまうのでしょうか？

それでも学生も色々質問をして自分の将来の為になりそうな答えを引き出していました。

最後は、いつもの通り、大本香津子さんと元応援団が壇上に上がり、校歌を大きな声で歌い、皆さん大変気分よく盛り上がりました。

(平成三年卒) および佐藤慶氏(平成三年卒) から、自身の就活経験、現職を踏まえた後輩たちへの厳しくも温かい、励ましのエールが送られました。最後に橋本五郎会長(昭和四〇年卒)の挨拶で約二時間に亘った交流会は盛会に終了となりました。交流会に参加した学生達は、引き続き「賀詞交歓会」に移動し、社会人OBおよびOG達との懇親、交流が行われました。学生達は希望の職種につく先輩達と積極的に交流し、普段、就活本やインターネットでは得られない貴重な生の情報を得ることができ、大盛況に終了いたしました。

この交流会は、学生達が秋高同窓生の各界でご活躍の諸先輩方と面識を得る、また、名刺交換するもよし、就職問題等の悩みを相談できる格好の機会であり、大学の同窓会とは一味違った特徴あるイベントであると考えております。

こうした会が、賀詞交歓会に付随して開催されていることを、関東地方に住む一人でも多くの秋高出身の大学生達に知っていただけたらと痛切に感じております。来年も1月に同様な形で開催する予定です。大学生はもとより社会人の皆様にも是非、ご参加いただきますようお願いいたします。引き続き格段のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

鈴木香 (S51)

どこに行っても自分の町が 国の中心……コロンビア

仕事でコロンビアのいろいろな都市を旅した。摂氏四十三度のセサル県・アグアチカ市、コーヒー畑が広がるキンディオ県アルメニア市、女性の美しさで有名なリサルタ県レイラ市……。

そんな中で、どこに行っても必ず聞かれた言葉があった。

「この町がコロンビアの中心だ」

彼らは必ず何かコロンビアで一番のものを探し出して誇るのだ。アグアチカなら「コロンビアで一番暑い」から中心。ペレイラなら「コロンビアで一番美女が多い」から中心。ある小さな村に行つたとき、さすがに「コロンビアで一番のものはないだろうと思ったが、「ここは数学的に見て、コロンビアの重心に位置するうちの村こそがコロンビアの中心じゃ」と村の重鎮に言われ、降参した。そし

てこれが秋田だったらどうだったろうか、と考えてみた。

私自身を例にとってみる。秋田県立A高校に入つたのも、W大学に行きたかつたから。W大学に行きたかつたのも、東京に出たかつたから。東京に出たかつたのも、秋田に誇りをもつていなかったから。もちろん秋田が日本の中心だとは考えていなかった。そして、それは私だけではなかったはずだ。

確かに、やむをえない事情はある。テレビでは魅力的な東京の姿が映し出される。渋谷・新宿・六本木……。田舎を嫌い、都会に憧れる若者が量産される土壌がある。

十八歳で故郷を出てから、十六の国を知り、数え切れないくらいの都市を見てきた。今、それらの町と故郷秋田

と比較してきてみると、はつきり胸を張って言えることがある。秋田は世界でも五本の指に入るくらい美しい都市である、と。

「コロンビアに五年住んで得られた生きるヒントのうちの一つは、自分の街が国の、そして世界の中心であると考えてること。とにかく故郷を誇る。主観を排して秋田という地を客観的に見ても議論の余地はない。秋田には素晴らしいものがたくさんある。米、水、酒、うどん、きりたんぼ、美女、景色。そして、秋田人の温かさ。どれをとっても日本一だ。コロンビアの感覚で言えば、堂々と「秋田は日本の中心だ」と誇ることができ。都会への憧れというつまらない感情に流される若者を、私は糾弾するつもりはない。私もそうだった。外に出なければわからないこともたくさんあるし、帰属している世界から出たいという欲求は若者の証だからだ。積極的に出て行けばいい。外に出て、心を開いて生活すれば必ず郷土愛や郷土への誇りが生まれる。そのちに語り始めればいい。」

「秋田が世界の中心だ」と。
草野剛（H10）



S40 年卒

橋本五郎

読売新聞特別編集委員

一人で
考え込まないで！

S44 年卒

高橋 裕次郎

弁護士・高橋裕次郎法律事務所

y-takahashi-law@f04.itscom.net

二木 猛

(株)サーマル

S39 年卒

省エネルギーと環境

www.e-thermal.co.jp

鎌田 進

カ)プロジェクト21
鎌田会計事務所

S47 年卒

税務署という漢字を見たら
鎌田へご一報を
sukamata@nifty.com

橋本五郎の AKITA 元気トーク



秋高東京同窓会会長

橋本 五郎

「東日本復興
構想会議」委員に

日本の歴史の中で、エポックを画するいくつかの出来事がありました。応仁の乱やバブルとその崩壊を代表例として挙げる歴史家もいます。価値観が全く変ってしまつたといふのです。東日本大震災もそれに匹敵する出来事なのかも知れません。

三週間後に被災地を回りました。車で二日かけて田老地区から山田、大槌、宮古、釜石、大船渡、陸前高田、気仙沼と南下し、翌日はジェット機で仙台から岩手に北上しました。一面「瓦礫の平原」と形容するしかない惨状でした。自然の島は残り、人工のものごとごとく破壊されていました。

懸命に捜索作業をしている自衛隊員、避難所の伝言板で肉親を捜している被災者の姿を目の当たりにしながら、一日も早い復興を祈りました。その翌日、菅総理から電話があり、「東日本復興構想会議」

の委員になるよう要請されました。菅政権に対しては疑問と批判はありますが、政権を超えた課題として承諾しました。「災害に強い街」にしなければいけないのはもちろんですが、復興を「地方再生」の大きなステップにする必要があります。東京は電力にしても農産物にしても東北に支えられていることが、大震災で一層鮮明になりました。東北はもつと自信を持つていいのです。

復興の具体策は、「復興構想会議」で急ピッチで進みます。被災者が希望を持つような復興策をつくらなければいけないという思いはさらに強くなっています。



みたね鯉川地区交流センターに
設置された橋本五郎文庫

同好会
呼びかけ趣味で囲碁の
好きな方々へ

秋高30会 横山樹静

関東東北大地震に罹災された方々、親戚や友人知人で被害に遭われた方も多数おられると思います。心からお見舞い申し上げ、一日も早い復興を祈念いたします。我々もそれぞれが出来得る事で協力したいと思っています。

処で我々秋高三〇会（昭和三十年卒）は以前に当紙で紹介したが、毎年恒例の鴨鍋会の外に、有志で年四回のゴルフコンペや、毎月一回の囲碁会等をやっている。そんな事から先日当紙編集担当から、当同窓会も他校の様に趣味等のサークルを起ち上げたいので原稿を書くよう依頼があった。はじめ編集子からはゴルフ会でもと云われたが、時間と気軽に出来る囲碁会ならと思い、囲碁を好む諸兄姉に二報した次第である。漫画「ヒカルの碁」で子供達にも浸透して、映画「呉清源・極みの棋譜」や、昨年の本屋大賞を受賞した沖方丁著「天地明察」等での評判もあり、囲碁人口も長屋のご隠居範疇から、各年代の老若男女にも拡がってきている。

我々三〇会は碁楽会と称して、毎月第一月曜日に東京駅八重洲のいづみ囲碁ジャパンに集まって二、三局打ってはその後一杯を楽しんでいる。最近では身体の不調やその他で参加者も減って一〇人を切る事が多い。当日は大館鳳鳴高のOBグループも来て毎月打っているし、横手高や他校もこのような会があるようだ。

昨年は、いづみジャパンの内久根代表から、メールで第二回全日本社会人囲碁団体戦に秋高同窓会も出場しないかと誘われた。秋田の他の高校同窓会も出場しているので、県下第一の秋高同窓会も、相場一宏氏等もいる事だし出場検討をと云われた。同級生の彼は現役囲碁観戦記者で、プロ高段者に先か二子の腕前であり、取材の合間の時間が取れる時は例会にも出て来ている。

処で提案であるが、同窓の諸兄姉で月一回でも日を決めて集まって盤を囲もうではないか。日時と場所は別途相談するとして。ご興味ご意思のある方は事務局の鎌田会計事務所の方に、メールかファックスを貰えば幸いである。



秋高連活動報告

秋高連 25 周年記念フェスタ開催

平成 22 年 12 月 9 日（木）18:00 より、アルカディア市ヶ谷に於いて、「秋高連 25 周年記念フェスタ」を開催しました。当日は、ご招待者を含め、38 同窓会、350 人が参加、秋田高校からも 22 名が参加しました。

第 1 部記念講演は、佐竹敬久秋田県知事より「県政運営の基本」と題してお話頂きました。

引き続き第 2 部交歓会では、柴田秀二秋高連会長挨拶、佐竹敬久秋田県知事より来賓ご挨拶、煙山力首都圏秋田県人会連合会会長より乾杯を頂き盛大にスタートしました。途中、招待

者スピーチ、在京同窓会の紹介、佐藤真理子さんの民謡ロック等皆皆大いに盛り上がり、あっという間に 21:00 閉会となりました。（日本酒は、秋田の銘酒 50 本が完飲でした。）

今回は 25 周年記念として、秋田からも多数ご参加頂きました。平成 23 年も 12 月開催を予定していますので、交流の場として是非ご参加下さいませようお願いします。（秋高連会長代行・大野省治 S 42）



けやき会だより



前(め)さ行くどお！新東北を

3.11 東日本大震災チャリティの集い

2011 年 7 月 2 日（土）

主催：秋田ふるさと応援団

後援：秋田県 協力：秋田市、秋高連、けやき会、秋田文化会議

時 間 14 時～17 時（180 分）

場 所 日本青年館 国際ホール

（地下鉄銀座線外苑前）

TEL 03-3401-0101

参加費 5500 円（会場費、飲食込み）

内容（予定含み）

●ミニコンサート 「横手 HEROS」「大いなる秋田吹奏楽メンバーズ」など

●秋田人スポーツ、芸能、著名人オークション

●写真・ビデオ・語り「あの佐野（細川）さん（秋工出身花園優勝者）が被災者に」

●一芸「わたしも」踊り・民謡・パフォーマン

●一言メッセージ「私の東北・復興の夢・今何を」

飲んで・食べて・円卓テーブルに東北の味をやっぱり「各校校歌歌合戦」そして「ふるさと」。みんなしてエールは「前（め）さ行くどお！フレーフレー東北、フレーフレー秋田」

他校だよりシリーズ (秋田工業)

東京秋工会

東京秋工会長
三平 俊悦

東京秋工会は、本年度で発足71年になります。まず、先輩諸兄と同窓会本部のご協力とご支援の下に活動は幹事会(35名)、会報編集会を軸に運営しております。

同好会はゴルフ(年二回春、秋、開基(偶数月第三土曜日)、詩吟・尺八(毎月第四土曜日)、釣り(年3回)、ハイキング(年四回)、があり、近況報告や情報交換の場となっており、後の飲み会がそれぞれの会で楽しんでおります。

会報、同好会、発足のきっかけは、二〇年前頃から総会・懇親会に出席者が次第に少なくなってきました。出席者を増やすために、



こちら同窓会 番外編!

任意メンバーで不定期に、年次と無関係に時々集まりミニ同窓会してます。今回は賀詞交換会参加時の学生、社会人を主に2/18計10名で行いました。場所は何と、東京駅近く商社の社員食堂。勤務しているOBの発案で学生には会社見学の意味もあるのではとの理由です。年齢が異なるのは勿論、初対面の人もいるのに、会の空間で長年の知己のように話が弾み、社会人は就職相談にもなります。

会話しながら、「あれ初対面なのにね・・・」ふとその事にお互い気づき、ああ同窓生だからだね・・・と東京でしみじみ思う秋高同窓のアイデンティティ。

勿論、誰でも参加歓迎、メールOKです。

幹事:大橋 (star.prince-akira@docomo.ne.jp)

会報(KANASA年一回)の発行、ホームページ立ち上げ、各同好会発足することで、会の活性化と活動状況や情報等が確認できること、同窓の皆様との、つながりをより一層深め、会の発展に寄与できる目的で企画しました。会報は本年8月で19号発行します。ホームページにリアルタイム情報提供しております。ゴルフ同好会は最初一組でスタートして、現在七

八組で開催しております。約六〇名登録している、6月に第40回記念大会予定しております。他の同好会もエキスパートを軸に活動しており、最近は開基、ハイキング、登山が人気あり好評です。

私は、けやき会、秋高連、他校との交流活動の機会に、感じることは各校とも如何に多くの同窓生に総会・懇親会に出席してもら

うのに、努力しております。近年上京してくる卒業生が少なくなり、若い同窓生の出席が課題となっております。おられるようで共通の悩みです。

今後は各校と垣根を越えて親睦と交流を深めて連携強化してお互い同窓会の活性化と発展のために協力し合しましょう。(S37卒)

秋田ふるさと応援団 甲子園観戦記

3月24日第八三回選抜高校野球大会二日目第一試合九時開始、大館鳳鳴対天理(奈良)対戦に、秋田ふるさと応援団代表として、応援してきました。寒い朝にもかかわらず、早くから大館鳳鳴、近畿秋田県人会の皆様が受付しておりました。学校関係者OB、OGそれぞれ、同窓、同期、方達が懐かしく会話しておりました。東日本大震災の被災地区、被災者に対して一刻早く復興、回復を願ひ込めて、「がんばろう日本」のスロ



ーガンを掲げた今大会は、球場いたるところに、「がんばろう日本」の看板掲げてありました。

アルプススタンドは大応援団で埋め尽くされました。地元関西天理の応援人数よりも倍以上多く初出場として関心が高かった。地元兵庫県篠山鳳鳴高校とは、お互い野球を通して、一〇年前から友好提携校として、毎年交流しております、両校とも創立一〇年越えた伝統ある進学校です、篠山鳳鳴野球部員、生徒、同窓会会長ら約二〇〇名程応援にかけつけた。篠

幹事会便り

毎奇数月の第二金曜日が定例の同窓会幹事会である。

その日も予定どおり開催し、同窓会報と六月の総会についての打ち合わせを行なうつもりであった。ところが午後二時四十六分に突然の長く大きな揺れ。職場や街中は少しパニック状態に。それでも会議はできるだろうと池袋駅に向かったが、全ての電車がストップ状態、電話も全く通じない、誰にも連絡のつかないまま今日の幹事会は中止。徐々に徐々に伝わってくる東北地方の被害まさかこれほどの惨状になっていたというとは……。

あの三月十一日から何かが変わったように思う。
今までの生き方、これからの生き方、今の生活スタイル、これから生

山鳳鳴、片山則昭校長が自ら先頭して大応援していただきました。秋田大館からは、生徒、OB、OG、父兄関係者達が飛行機、バス、列車、で大勢かけつけて、近畿秋田県人会(約五〇名秋工、菅関西幹事長、塩月さんが参加しました)と共に大応援しました。

これからも、秋田ふるさと文化、芸能、スポーツ等、を応援して、秋田の活性化の一助なればと思います、団員と共に頑張ります、皆様方から賛同とご支援、ご協力お願い申し上げます。

活スタイル……。それぞれの人の生き方、生活スタイルに重い課題が突きつけられている。今、できることは何なのか、今やらなければならぬのは何なのか。

すでに支援活動、復興作業は多くの人の手によって行なわれており我々の同窓生も各地で活動している。橋本五郎会長は震災復興会議の委員として全体の大きな立場からの復興を担当されている。今は我々にとつて隣の県の支援の問題ではなく、我が県も含めた東北全体の復興のグランドデザインを描くという段階になっている。

故郷の人々と協力して、東北の人々と手を携えて頑張っていこう。
「がんばろう日本」「がんばろう東北」

幹事長 二木猛